

第3章

今後に向けて

少子高齢化の進展に伴い、家庭や地域での支援力や介護力が低下する中、疾患を抱えながらも生き生きと社会生活を営み、QOLを維持できる社会を実現することが求められています。

COVID-19の感染拡大に伴い、これまでに経験したことのない対応を求められた看護職は、本来の役割や機能を果たすことは勿論のこと、日々生じる新たな状況に、関係者・関係機関とともに知恵を出し合い、柔軟にかつ的確に対応してきました。この対応力は、我が国の未だかつてない高齢化と人口減少に伴う新たな課題への対応や必要とされる新たなサービスを創造していく上でも重要な鍵となります。

これから目指すのは、誰もがそのニーズに合った支援を受けられる地域づくりです。本稿で示した「地域全体の健康・療養支援体制の強化」はこの地域づくりを支える柱でもあります。看護の機能がさらに強化され、看護の場が施設から地域へと広がること、そして、看護職がそれぞれの役割や機能を活かし、有機的につながりネットワークを構築することは、安全・安心な地域づくりの礎にもなります。

その実現に向けて、健康寿命の延伸や健康格差の縮小に向けた重症化予防に着眼点を置きつつも、「予防」「医療」そして「生活（暮らし）」の観点から、地域住民に寄り添い継続的に支援できる看護のアプローチが果たす役割には大きな価値があります。看護の本来の専門性を活かし、地域のニーズに即したサービス・仕組みを創造していく、今がそのチャンスです。是非、チャレンジしてみましょう。

地域に求められる健康・療養支援の仕組みづくりには

高齢化の進展のスピードやその度合いは、地域によって差があります。また、高齢者を支える関係機関やサービスも同様に異なります。様々な地域課題やニーズを前に、どこから対応してよいか戸惑う看護職も多いでしょう。大切なことは、地域の看護職同士が目指すべき姿を描き、それに必要な条件を考え、自らの役割・機能を確認してみることです。看護職同士で目指すべき姿を描けると強化すべき機能や連携すべき機関も見えてきます。

また、個々の対象者への支援にとどまらず、地域全体の仕組みとするためには、行政施策との連動が不可欠です。また、住民一人ひとりの健康や療養生活を支援するためには、地域の多職種との連携も重要です。このため、各自治体における保健医療福祉に関する各種計画の策定や政策づくり、関係者との連携づくりの場等にも地域の看護職として参画し、看護活動の知見を提示するとともに自らの役割や機能を改めて周知しましょう。地域によって各種社会資源等の違いがありま

すが、自治体や他職種と協働し、地域の特性や強みを活かしながら、地域に根ざした仕組みの構築を目指していきましょう。

特に、自治体保健師には、地域を看護する役割があります。地域の特性をよく理解した上で、人・場・機能をコーディネートし、地域全体のエンパワメントに向けてマネジメントするなど、保健師本来の専門性を十分に発揮していくことが、地域に根差した仕組みづくりにもつながります。

地域ニーズに対応したサービスの継続には

地域に必要なサービスを継続的に提供するには、看護サービスを提供する機関として、サービスの質を担保し、安定的に提供できる組織基盤が必要であり、財源の確保が欠かせません。そのためには、看護活動の必要性やその価値をより一層可視化することや、生活習慣病の重症化予防などの医療保険者による事業、自治体における地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた各種施策と連動しながら、自治体保健師と地域の看護職の連携・協働による健康・療養支援が機能していくことが求められます。これらの地道な取組を定量的、客観的に評価することにより、診療報酬をはじめとする財源の確保にもつながります。

地域における看護活動の更なる発展を目指して

地域の中で、看護活動の推進力を高めていくには、自らの活動をモニタリングし、評価、改善していくことが重要です。支援により、対象者の健康状態や療養生活がどのように変化・改善しているか、支援プロセスは適切であったかなどを可能な限り客観的に評価してみましょう。また、地域に求められる仕組みの構築では、地域の自治体や関係機関とのタイムリーな情報共有や連携体制の充実度などを評価することも重要な視点となります。今後、私たちが地域全体の健康・療養支援における看護活動を更に発展させていくためには、地域における一つ一つの看護活動、そして、仕組みそのものの評価も含めてマネジメントができる人材の育成も一層重要になっていきます。

本稿では、看護職による健康・療養支援をどのように展開すればよいのか、多くの取組事例を提示しました。そこには先駆的に活動してきた看護職のエッセンスが含まれています。皆様も、これまでの看護活動を振り返り、何ができるかを考え、ぜひ一歩踏み出してみてください。地域の看護職がお互いの役割を知り、共に取り組むプロセスが新たなネットワークのはじまりです。人々の健康をまもり、より健康にすること、そして、人々が住み慣れた地域で安心して暮らせる健康なまちづくりに向け、看護職の力を発揮していきましょう。